

## 【題材設定の理由】

他の人が描いたものを観てしみじみと何かを思うこと、小さな種を見て豊かな森を想像したり発想したりすること、どちらも美術ではごく普通の活動です。わたしはこのところ「柔軟に発想する力を養う」題材で面白いものが何かできないかとずっと考えてきました。何もないところから発想することは難しいのですが小さな種があったら発想しやすくなるのではないのでしょうか。そこで授業に熱心に取り組む生徒達に、画材の特性や面白さを体感させ、同じ画材で描いた面白い絵を観て、そこから自分なりに発想してみる題材を用意してみました。

また、せっかく高校で美術を選択してくれた生徒達に「ゴッホ、モネ、モネ、ルノアール」「わからないけど天才」ピカソ」だけでない世界、特に日本美術の存在を意識してほしいという野望があります。見るだけより、まねして描いてみたらぐっと身近な存在になるかもしれません。博物館や美術館で多くの日本美術が紹介される中、「高校の美術ではそんなことも習わなかったの？」と言われるより「ああ、あの美術の先生が熱く語っていた俵屋宗達ね」と言ってみてほしいのです。私の名前は忘れていい（覚えなくていい）から長谷川等伯は覚えておいてほしい、そんな思いで毎回マシガントークを繰り返しています。

## 【この題材でつきたい力】

・鑑賞の能力：江戸時代等の著名な画家の作品について、模写を通じてそのよさや美しさを創造的に味わう力  
・発想や構想の能力：画材（墨、筆、水性）について理解を深め、積極的にそのよさをいかし、動物をモチーフとした作品について柔軟に発想する力。

【用具・画材等】生徒個々に絵皿3枚、筆（面相、丸、平）、雑巾。水入れ（二人に一つ）水差し（班に一つ）。

配付資料（白黒コピー）、練習用コピー用紙、更紙、新聞紙。清書用和紙または画用紙。低予算でできます。

## 【授業展開（5時間扱い）】

## 1 時間目：「鳥獣人物戯画巻」の鑑賞と模写

作品の作者に関する情報、作品に関する情報などを共有した後、白描画を模写します。

手を慣らすために、どんどん写すのがポイント。教科書の図版を見ながら。

## 2 時間目：室町く江戸時代の画家の作品の鑑賞と模写

なるべく面白い動物モチーフの水墨画を集めて資料を作成し、個々に配付します。V3版で5枚、蕭白、若冲、芦雪、宗達、等伯を載せてあります。資料作成に**ブライスコレクション**、**東京国立博物館**、**三の丸尚蔵館**のカタログはマストアイテムでした。ちなみに、日文の新しい「高校生の美術1」の教科書にも水墨画の技法が詳しく掲載されています。この時間は墨を薄、中、濃の3色作ってから模写します。

勤務校は2時間連続の授業時間なので、ここまでで第1回が終了します。

## 3 時間目：水墨画の技法と創作

この時間の始めに、まず技法説明をします。前回までは墨を3段階の濃度にする（薄墨、中墨、濃墨）しか指示せず、自由に描かせて「失敗」を誘発しておきます。それを踏まえてにじむ場合とにじまない場合、

ドライブラシなど模本（プリント図版）を見ながら説明すると、ほとんどの生徒がすぐにコツを飲み込みます。加えて、模本の説明で強調しておきたいのがこの時代の画家達のイマジネーションの素晴らしさです。この部分は次の時間の創作にもつながるので、「柔軟な発想力こそ創作の醍醐味」ともり立て、技法を意識しながら同じ資料を模本にもう一度模写を行います。

#### 4時間目：動物を水墨で描く（創作）

ここからはぼぼ墨でのドロ잉です。資料として動物が小さくたくさん掲載されている図鑑の表紙を用意しています。資料はあくまでも参考であり、写実的であることは全く求めません。



#### 5時間目：創作の清書

前回までに描いたドロ잉の中から、自信作を和紙に清書します。描き散らしたことが自分の中で落ち着き、より計画的に、より構想を練って作品制作できます。練習用のコピー用紙と和紙では水分の吸い込みが違うのが難点ですが、だいたい調子をつかんで制作できるようです。

清書が出来上がったら、周囲を片付けて生徒同士で作品を鑑賞し合います。

#### 【生徒の反応（振り返りシートより）】

- ・模写は楽に描けたが、自分でかくと思っただようにかっこよくならなくて、うまい人の絵の構成のうまさがとても伝わってきた。
- ・一つの墨でいろいろな色ができることに感心した。また、習った内容を自分の好きなことに応用することができてうれしかった。



はできないし、水分量もとても重要になるなどさまざまな面で苦戦したが、その分、えんぴつよりも大胆に描けるのが水墨画の魅力かなと思いました。そういう点でみたら自分の作品も成功といえるのかなとおもいました。

・水墨画といえどあらゆるテクニックをつかっただうえでの作品なのだと思います。濃淡を変えるだけでなくちよつとしたところの工夫で水墨画のよさがきまるのだと学んだ。

#### 【まとめ】

「想像力と創造力はホモ・サピエンスの最高の能力だ」と本気で思っています。ですから「美術は見ても描いても楽しい」ということを生徒と共有しながらイマジネーションとクリエイティブティを養っていきたいと考えます。他の人が描いたものを深く鑑賞するには、同じことをやってみるのも良い方法です。特に私達は長いこと墨と筆の表現から離れており、タッチパネルネイティブには簡単になれても、筆ネイティブは絶滅の危機に瀕しています。それでも私達もつこの「想像力（これはどうやって描いたのだろう、何を考えて描いたのだろう?）」という回路を使うことで、より親密な感情を抱いて鑑賞できるのではと考えます。この題材も、イマジネーションを花開かせるものとなるように日々更新していきたいです。

